

＜ 数学 ＞科 学習シラバス

科目	数学Ⅱ	学年・類型	2年生・Ⅱ型	単位数	4単位	教科書	高校数学Ⅱ（実教出版）
学習の到達目標		1 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付ける。 2 事象を論理的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。 3 数学のよさを認識し積極的に数学に活用しようとする態度、考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身に付ける。					
評価の観点	A 知識・技能		B 思考・判断・表現		C 主体的に学習に取り組む態度		
評価の内容	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする知識や技能が身に付いている。		等式や不等式が成り立つことなどを論理的に考察する力、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力が身に付いている。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。		
評価の方法	・定期考査 ・課題への取組		・定期考査 ・小テスト		・授業への参加姿勢や態度 ・予習や復習への取組		
学期	月	単元名・小単元名	学習の指導内容			評価の観点	
			A	B	C		
1 学 期	4	1章 複素数と方程式 1節 式の計算 1. 整式の乗法 2. 因数分解 3. 二項定理 4. 分数式 2節 複素数と2次方程式 1. 複素数 2. 2次方程式 3. 解と係数の関係 3節 高次方程式 1. 整式の除法 2. 剰余の定理と因数定理 3. 高次方程式 4節 式と証明 1. 等式の証明 2. 不等式の証明	・式の見方を豊かにするとともに、3次の乗法公式および因数分解の公式について理解を深める。 ・二項定理を用いた展開や、分数式の四則演算ができるようにする。	○	○	○	
	5	2章 図形と方程式 1節 点と座標 1. 直線上の点の座標と内分・外分 2. 平面上の点の座標と内分・外分 2節 直線の方程式 1. 直線の方程式 2. 2直線の関係 3節 円の方程式 1. 円の方程式 2. 円と直線の関係 3. 軌跡	・数を複素数まで拡張することの意義を理解し、複素数の四則演算ができるようにする。 ・2次方程式の解について理解を深める。	○	○	○	
	6	4節 式と証明 2章 図形と方程式 1節 点と座標 1. 直線上の点の座標と内分・外分 2. 平面上の点の座標と内分・外分 2節 直線の方程式 1. 直線の方程式 2. 2直線の関係 3節 円の方程式 1. 円の方程式 2. 円と直線の関係 3. 軌跡	・整式の除法について理解し、計算できるようにする。 ・剰余の定理や因数定理を理解し、余りを求めたり、因数を調べたりできるようにする。 ・因数定理を用いて高次方程式を解けるようにする。	○	○	○	
	7	4節 式と証明 2章 図形と方程式 1節 点と座標 1. 直線上の点の座標と内分・外分 2. 平面上の点の座標と内分・外分 2節 直線の方程式 1. 直線の方程式 2. 2直線の関係 3節 円の方程式 1. 円の方程式 2. 円と直線の関係 3. 軌跡	・等式や不等式を証明する方法を理解できるようにする。	○	○	○	
2 学 期	8	4節 不等式の表す領域 1. 円で分けられる領域 2. 直線で分けられる領域 3. 連立不等式の表す領域 3章 いろいろな関数 1節 三角関数 1. 一般角 2. 三角関数 3. 三角関数の相互関係 4. 三角関数の性質 5. 三角関数のグラフ 2節 加法定理/弧度法 1. 加法定理 2. 加法定理の応用 3. 弧度法 3節 指数関数 1. 指数の拡張(1) 2. 累乗根 3. 指数の拡張(2) 4. 指数関数のグラフ 4節 対数関数 1. 対数 2. 対数の性質 3. 対数関数のグラフ 4. 常用対数	・不等式の満たす点の集合が領域ということを理解し、領域を図示できるようにする。 ・ $ax+by+c>0$ などの形で表された不等式を適切に変形することで、領域を図示できるようにする。 ・それぞれの不等式が表す領域の共通部分を考察できるようにする。	○	○	○	
	9	4節 不等式の表す領域 1. 円で分けられる領域 2. 直線で分けられる領域 3. 連立不等式の表す領域 3章 いろいろな関数 1節 三角関数 1. 一般角 2. 三角関数 3. 三角関数の相互関係 4. 三角関数の性質 5. 三角関数のグラフ 2節 加法定理/弧度法 1. 加法定理 2. 加法定理の応用 3. 弧度法 3節 指数関数 1. 指数の拡張(1) 2. 累乗根 3. 指数の拡張(2) 4. 指数関数のグラフ 4節 対数関数 1. 対数 2. 対数の性質 3. 対数関数のグラフ 4. 常用対数	・角の概念を一般角まで拡張する意義を理解し、三角関数の値を求められるようにする。 ・相互関係を利用して、1つの三角関数の値から残りの三角関数の値が求められるようにする。 ・三角関数の性質を利用して、いろいろな三角関数の値を求められるようにする。 ・三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。	○	○	○	
	10	4節 不等式の表す領域 1. 円で分けられる領域 2. 直線で分けられる領域 3. 連立不等式の表す領域 3章 いろいろな関数 1節 三角関数 1. 一般角 2. 三角関数 3. 三角関数の相互関係 4. 三角関数の性質 5. 三角関数のグラフ 2節 加法定理/弧度法 1. 加法定理 2. 加法定理の応用 3. 弧度法 3節 指数関数 1. 指数の拡張(1) 2. 累乗根 3. 指数の拡張(2) 4. 指数関数のグラフ 4節 対数関数 1. 対数 2. 対数の性質 3. 対数関数のグラフ 4. 常用対数	・加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解する。 ・2倍角の公式を利用して、 $\sin 2\alpha$ や $\cos 2\alpha$ の値を求められるようにする。 ・弧度法と度数法との関連を理解し、扇形の弧の長さや面積を求められるようにする。	○	○	○	
	11	4節 不等式の表す領域 1. 円で分けられる領域 2. 直線で分けられる領域 3. 連立不等式の表す領域 3章 いろいろな関数 1節 三角関数 1. 一般角 2. 三角関数 3. 三角関数の相互関係 4. 三角関数の性質 5. 三角関数のグラフ 2節 加法定理/弧度法 1. 加法定理 2. 加法定理の応用 3. 弧度法 3節 指数関数 1. 指数の拡張(1) 2. 累乗根 3. 指数の拡張(2) 4. 指数関数のグラフ 4節 対数関数 1. 対数 2. 対数の性質 3. 対数関数のグラフ 4. 常用対数	・指数を0や負の整数に拡張し、指数法則を用いて数や式の計算ができるようにする。 ・累乗根を含む式の計算について、指数法則を利用して考察する。 ・指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解できるようにする。	○	○	○	
3 学 期	1	4章 微分と積分 1節 微分の考え 1. 平均変化率 2. 微分係数 3. 導関数 4. 接線 5. 関数の増加・減少 6. 関数の極大・極小 7. 関数の最大・最小 2節 積分の考え 1. 不定積分 2. 定積分 3. 面積 4. いろいろな図形の面積	・対数の意味とその基本的な性質を理解する。 ・対数の性質を利用して、対数の計算ができるようにする。 ・対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 ・常用対数表を用いて、整数の桁数を調べることを考察する。	○	○	○	
	2	4章 微分と積分 1節 微分の考え 1. 平均変化率 2. 微分係数 3. 導関数 4. 接線 5. 関数の増加・減少 6. 関数の極大・極小 7. 関数の最大・最小 2節 積分の考え 1. 不定積分 2. 定積分 3. 面積 4. いろいろな図形の面積	・微分係数の意味について理解し、微分係数を求められるようにする。 ・導関数の意味について理解し、導関数を求められるようにする。 ・放物線上の点における接線の方程式を微分係数を利用して求められるようにする。 ・導関数を用いて、関数の値の増減を調べられるようにする。 ・導関数を用いて、極大・極小を求め、3次関数のグラフをかけるようにする。 ・導関数を利用して、3次関数の最大値、最小値を求める。	○	○	○	
	3	4章 微分と積分 1節 微分の考え 1. 平均変化率 2. 微分係数 3. 導関数 4. 接線 5. 関数の増加・減少 6. 関数の極大・極小 7. 関数の最大・最小 2節 積分の考え 1. 不定積分 2. 定積分 3. 面積 4. いろいろな図形の面積	・微分の逆演算として不定積分を考え、2次までの多項式関数の不定積分を求める。 ・定積分の意味を理解し、定積分を求められるようにする。 ・定積分をもとに直線や曲線で囲まれた図形の面積を求める。 ・積分の考えを用いて、いろいろな図形の面積を求められるようにする。	○	○	○	
学習のポイント		予習や復習など家庭学習を確実にを行うと、学習の効果は一層向上する。					